

仙人通信 132 高ジョッキ(1208 m)・丸岩(1124 m)

高ジョッキは榛名山の西・長野原の南に位置した尖った山で、丸山はマッシュルームの様に周囲が垂直の崖、半円形の緑の帽子を付けた形状あり、一度見ると忘れられない山である。高崎から国道 406 号線を約 1 時間、須賀尾峠に車を置いての両山へのピストンだ。

小さなお地蔵さんが安置された前から、登山道らしきコースを発見し、峠よりやや下がった地点に数台駐車できる場所を見つけて身支度をし、お地蔵さんに一礼してのスタートだ。

水櫃の枯葉とどنگりで踏跡は埋もれ、更に誰も踏んでいない為、立ち止まってはコースを確認して登る。物音は時折鳴くオナガの囀りと小生の靴のガサゴソ音だけだ。

花の時期を過ぎたホトトギス・ヤブレガサ・トウゲフキ・カニコウモリ等が実や穂を付けている。15 分程で行く手に大きな岩(紫蘇岩石)が立ち塞がる。左の縁を巻く様に登る。更に 5 分程で、紅葉の始まった尾根となる。尾根の北側は木々があるもかなりの急斜面である。水櫃に混じり、リョウブ・ヤマツツジ・ミツバツツジ・桜・ブナそして赤や黄色に色付いたカエデが尾根道を飾る。突然削岩機の音が鳴り響く、そう再開された八ッ場ダムの作業の音である。静かさに浸っていたのが・・・ガックリである。

尾根は紫蘇岩石がゴロゴロした上に枯葉で滑り易いので、ステッキで払い除けて確認してから進む。小さなアップ/ダウンを 20 分程繰り返すと最後の詰めである岩登りだ。

両側をツツジや天に向かい伸びたサンゴゴケ・シダに似たダチョウゴケも元気である。

三点ホールドをしながら約 10 分間で山頂に辿りついた。吾妻川に掛かる白いアーチ状の橋が眼下に、又先ほどの削岩機が岩肌を削っている様子も見え、八ッ場の変容が窺えた。

小さな山頂であるが真北に嘗て登った八間山・高田山・小野子山・大峰山・その後に谷川等の国境の山々、武尊・赤城・目の前に榛名だ。南側には妙義や西上州の山である。浅間隠山が名前の通り浅間山を隠している。白根山周辺が見えないだけで 300° 近い展望だ。

休憩後、丸岩の側面の崖を稍越しに眺め、足元を確認しながらの下山である。

子育地蔵まで戻り、国道のヘアピンを過ぎ、10 分程で『丸岩登山口』と書かれた所からのスタートである。黄色いニガナ・アザミ・コウガギク・ノコンギクの咲く登山口である。

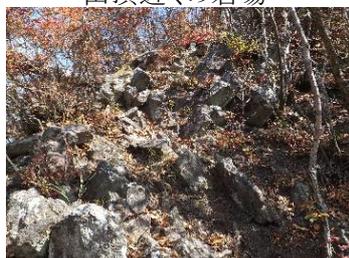
そうそうアキノチョウジも紫の花を付けて迎えてくれた。コウヤボウキに似たヒゴタイの花が水櫃の下でも元気に咲いていた。直ぐに紫蘇岩石のガレ場のトラバースの始まりだ。

20 分程で、岩がゴロゴロしたガレ場を過ぎ、丸岩の登り口だ。尾根状の縁を 10 分程で山頂である。水櫃やブナの葉でほとんど眺望は“0”であった・・・残念。それでも人に会うことの無い、静かな心休まる 3 時間半の山登りを経験しました。(13000 歩) h 27. 10. 20

登山口の子育地蔵



山頂近くの岩場



山頂からの展望

